

1 2 .“遊ぶ”

交流需要“遊ぶ”における交流活動例を、以下の通り集約して検討する。

(1) テーマリゾート (良質の宿泊施設を整備したテーマパーク)

図表 11-1 にモデルとなる先進事例を、図表 11-2 に岐阜の事例をまとめた。

真に豊かな生活 (時間) を楽しむことを模索する現代、テーマリゾートは生活の潤いとして、豊かな時間消費をコンセプトとしている。さらに自然との共生が重視される今、周辺地域との調和、環境問題、産業技術等多角的・立体的な視点が求められるようになっている。

豊かな時間消費という点では、次項の「複合商業施設」とも競合する一面を持つ。商業施設と異なり比較的高額の入場料金を設定する以上、他には真似のできない非日常空間の演出が期待されている。さらに“新しさの維持”、すなわち継続的に追加投資を行うことによって入場者は常に目新しいアトラクションやイベントを体験することができるということが、最大のポイントである。

現在テーマパークは淘汰の時代に突入している。多くのテーマパークが経営難に苦しむ中で、東京ディズニーランド (T D L) の一人勝ち状態が続いている。ここに 2001 年 3 月末、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン (U S J) がオープンする。“東の T D L、西の U S J” は後背人口と魅力的なアトラクションを強みに、我が国テーマパークの双璧となると見込まれる。例えば T D L は、T D L を楽しむために近隣のホテルを利用する、いわば観光 (旅行) の目玉である。

岐阜のテーマパークにおいては、豊かな自然環境資源を活かし地域に根差した独自性・テーマ性は注目されるものの、楽しみ方のスケールは狭い。他の観光資源との相乗効果でもう 1、2 日滞在を延長してもらえような、大規模ではないが良質な施設、岐阜に具現されている伝統文化や精神風土などをテーマにした、中規模のテーマリゾートの可能性を検討してみることが必要であろう。

図表 11-1 テマリゾートの事例（１）

モデルとなる活動例
東京ディズニーランド／東京ディズニーシー（千葉県浦安市舞浜） http://www.tokyodisneyresort.co.jp/ 日本初のテーマパーク「東京ディズニーランド」は今その枠を超えて、テーマリゾート「東京ディズニーリゾート」へ発展を遂げつつある。成長を続ける「東京ディズニーランド」と「東京ディズニーリゾート・オフィシャルホテル」、2000年にオープンした物語とエンターテインメントにあふれる街「イクスピアリ」及び日本初のディズニーブランドホテル「ディズニー・アンバサダーホテル」に加え、2001年秋新たに生まれるのが、世界初の“海”をテーマにしたパーク「東京ディズニーシー」、日本初のディズニーテーマパーク一体型ホテル「東京ディズニーシー・ホテルミラコスタ」、そしてリゾート内全ての施設を結んで走るモノレール「ディズニーリゾートライン」である。それぞれが個性的なテーマを持ちながらもエリア全体では質の高いエンターテインメントを提供。男女や世代の別を問わず、その時々シチュエーションに応じた多様な楽しみ方、過ごし方を発見できる場所なのである。集客面でも、年間1700万人を集客する「東京ディズニーランド」のリピーターは来場者の95%に及んでおり、これは首都圏約3000万人という後背人口を持つことが大きく寄与している。
ユニバーサル・スタジオ・ジャパン（大阪市） http://www.usj.co.jp/ ユニバーサル・スタジオは映画、テレビを題材としたテーマパークにおいて世界でナンバーワンを誇っている。この伝統あるエンターテインメントの初めての海外進出としてユニバーサル・スタジオ・ジャパンが2001年3月31日、大阪湾ベイエリアの中心地にオープンする。初年度の集客目標は約800万人で、日本国内はもとよりアジア各国から多数の来場者を期待している。園内には人気映画の「ジュラシック・パーク」「ジョーズ」「E.T.」等を題材にした18のアトラクションがある。正面入り口前にJR桜島線の新駅「ユニバーサルシティ駅」が開業し、大阪駅と直通電車で結ばれる。全アトラクションが利用できるチケットは中学生以上の大人が5500円、4歳以上から小学生までが3700円。三和総合研究所によれば初年度の集客は約939万人に達し、関西経済への波及効果は4534億円に上るといふ。雇用誘発効果は関西だけで約2万9600人、全国では4万2500人に上っている。
ハウステンボス（佐世保市） http://www.huistenbosch.co.jp/ 同施設はリゾートにおける観光都市という位置づけであり、「街」の中にアミューズメントやエンターテインメントの要素も含み、来場者がそれぞれの楽しみ方を選択できる構造となっている。エコロジーとエコノミーが共存し、テクノロジーが支える構造を持った他にない都市であり、今後「環境」という側面が同施設の魅力として大きくクローズアップされる可能性もある。
倉敷チボリ公園（倉敷市） http://www.tivoli.co.jp/ 世界最古のテーマパーク、デンマークのチボリ公園と提携した都市型テーマパーク。倉敷は白壁の古い街並みを大切に保存し、大原美術館に代表される芸術と、毎年春に開催される音楽祭で知られる観光都市であり、コペンハーゲンと共通するところが多く、同地のチボリ公園の美しさを生かしながら同時に日本人の感性にフィットした倉敷チボリ公園を創造。約12ヘクタールの広大な敷地に豊かな緑と四季折々の花々、チボリ湖等、「緑と花と水辺」の織りなす心あふるる公園である。チボリタワーではデンマークの自然・文化・歴史を紹介、またクラシックコンサートやアンデルセンの童話をもとにしハイテクを駆使したミュージカル等、心安らぐエンターテインメントが園内各所で展開されている。

資料：各種資料より MRI 作成

図表 11-1 テーマリゾートの事例（２）

モデルとなる活動例
スペースワールド（北九州市） http://www.spaceworld.co.jp 東京ディズニーランドやユニバーサル・スタジオ・ジャパンが全国を対象に大量集客を前提としたパークであれば、同施設は地域に密着した、安価でいつでも行けるパークという特色を持つ。便利な都市にありながら「安らぎ」「夢」「未来」といった非日常空間を身近に味わえる部分に「都市型テーマパーク」の大きな可能性を見出している。アジアの玄関口としての九州の優位性を活かして、中国語圏からの来場客の獲得を目指す。
箱根小涌園ユネッサン（小田原市） http://www.yunessun.com/ 水着を着て入浴する63種の地中海沿岸地域をモチーフとした浴場からなる「ユネッサン」、男女別で入浴する大露天風呂など32種の風呂がある「森の湯」、フランスの市場をイメージしたショッピングモールや、多様な料理が楽しめるレストラン・ギャラリーラウンジなどがある「ミーオモール」の3つのゾーンで構成される温泉テーマパークで、2001年1月1日開業。箱根で初の、温泉に入りながら音と光とお湯のショーを楽しめる、エンターテインメント性にあふれた施設である。同施設を手がけた藤田観光株式会社は様々な企業との共同開発により、新しいエンターテインメントやサービス向上、環境への配慮に努めている。 日本初の常設ウォータースクリーン：吉本興業株式会社との共同開発。極めて細い水系の滝を流して透明なスクリーンとし、そこに映像を投影するもの。吉本興業はお笑いだけでなく、都市計画コンサルティングや演出、音響・照明技術などの事業に進出しており、今回のウォータースクリーンはその事業の一環。同社は建物の設計者である（株）日本設計ならびに（株）乃村工芸社とともに、中心となる水着ゾーンにおける全体の演出や音響・照明、デザインなどを手がけるほか、商業ゾーンの店舗開発やレイアウト、商品構成、商品の陳列方法まで担う。 「リライト（書き換え）シート付非接触ＩＣリストバンド」を活用したキャッシュレスシステム：富士冷機株式会社、富士電機株式会社と共同開発。キーレス&キャッシュレスが主な特徴で、非接触タイプでロッカーの開閉と館内の決済手段とを相乗りさせたシステムとしては世界初。さらにマーケティング機能として顧客管理や施設の利用動向分析、イベントやゲームでの抽選機能も兼ね備えている。リライトシート付きリストバンドへ印字する発行機、消去機は世界初で、さらに従来高温に弱かったシートにサウナでも消えない耐熱性を持たせたのが最大の特徴。約5000個のロッカーをコンピュータで一元管理できるため、施設運営上の人員効率化、鍵管理の省スペース化も図ることができる。 マジカルラビリンス：凸版印刷株式会社と共同開発。目の錯覚を利用した幻想空間を体験できる施設。3D絵画ギャラリー、高臨場感シアター（ヴァーチャルシアター）、目の錯覚を利用した迷路の3種類で構成される。施設の核となる高臨場感シアターは凸版印刷（株）が自社施設内のデモンストレーション用に新開発したもので、一般営業用に公開されるのは初めて。第一弾として本物よりも恐怖感の高いジェットコースタームービーを上映。将来的にはシアターの特性を活かし、文化的なデジタル映像を含む様々なソフトの上映を検討している。 環境負荷低減活動「4 R運動」：清水建設株式会社と共同。4 Rとはリサイクル、リユース、リデュース、リフューズで、建物の解体や掘削、建設工事の過程で廃棄物を出さないゼロエミッションを徹底している。開業後の環境負荷低減活動としては、電気・ガスなどのエネルギー消費を低減するために、温泉の蒸気などを活用し床暖房や室内暖房等に利用することを検討している。

資料：各種資料より MRI 作成

図表 11-2 岐阜のテーマリゾートの事例

岐阜における活動例
河川環境楽園・世界淡水魚園（川島町） http://www.hakkenkan.go.jp/main.html 東海北陸自動車道の川島PAに隣接する、環境共生型テーマパーク「河川環境楽園」の県営公園部分に、愛知万博開催に合わせて世界淡水魚園（淡水水族館）を、民間活力を生かして整備。河川環境楽園は全体面積約54ha。国営公園部分と県営公園部分に分かれ、1999年7月には国営公園部分がオープン。オープン以来、2000年8月までに約360万人の入園者を数えるなど、東海地方屈指のレジャー施設となっている。
南飛騨国際健康保養地構想（南飛騨地域） http://www.minami-hida.gr.jp/12.htm 西洋・東洋医学、心理学、薬学、食品衛生学など、様々な分野で健康と美容に関する研究を行う健康美容研究所や薬草園、温泉施設を核にした拠点施設。民間活力を導入して、2005年頃開設予定。

資料：各種資料より GPC 作成

（２）複合商業施設

図表 12-1 にモデルとなる先進事例を、図表 12-2 に岐阜の事例をまとめた。

近年はエンターテインメント・アミューズメント機能を充実させた大型ショッピングモールの開設に注目が集まっている。単なるテナントの寄せ集めではなく、その建物・施設にはテーマ・ストーリーがあり、来場客に夢のある、ときめきの一日やライフスタイルを提案する構成となっている。“ここでしか得られないクオリティ・ライフへの提案”がポイントとなる。

岐阜においては地場産業である繊維・アパレルの蓄積をベースに、最新のトレンドを素早く商品化して販売できるシステムの構築や新しいデザイン・技術の発信等、複合商業施設という場が担うべき役割は重要であるといえよう。

図表 12-1 複合商業施設の事例（1）

モデルとなる活動例
キャナルシティ博多 http://www.canalcity.co.jp/ ”都市の中にもう一つの都市をつくる”を開発コンセプトとし、1996年オープン。ショップや飲食店の他「福岡シティ劇場」（劇団四季）、シネマコンプレックス「AMCキャナルシティ13」、アミューズメントテーマパーク「福岡ジョイポリス」を導入、さらに「グランド・ハイアット・福岡」「キャナルシティ・福岡ワシントンホテル」を誘致し、バラエティ豊かな施設構成をなしている。”時間消費型エンターテインメント”を重視しているが、同施設の最大のエンターテインメント性は、その施設づくり・環境デザインにあるといえる。人工運河や噴水等の水の空間、鮮やかな配色の外壁で魅力的な風景を演出し、全体の回遊性を高めることで移り変わる景色を十分に楽しむことができる。「キャナルシティ・夢美術館」では、同施設の主要ターゲットである若者を対象に、ミュージック系アーティストの作品の充実を図っていく方針である。
マイカル小樽（小樽市） http://www.mycal.co.jp/obc/ 国内最大級の複合商業施設で、「ウォーターフロントの立地を活かし、海と人とは深く関わる街づくり」をテーマに、建物外観や内部の随所に小樽の自然や歴史を感じさせるデザインを施している。4層をつらぬく「チャンバー」と呼ばれる2つの吹き抜けがあり、「ネイチャーチャンバー」では季節ごとに表情を変える海を借景として屋内に池を設け、そこに噴水や映像を使ったショーを演出。一方の「イマジネーションチャンバー」は、網目状の構造を持ち結接点が可動式の金属球が天井から吊り下げられ、コンピュータ・プログラムによって照明や音楽に合わせ拡大・縮小の動きを繰り返す等未来的なイメージを持ったもの。前者がハイタッチ感覚、後者がハイテク感覚と対称的な空間となっている。大型アトラクションを備えたAMスペース「ダイナレックス」、シネマコンプレックス「ワーナー・マイカル・シネマズ小樽」、レストランゾーン「海のルネッサンス」等、マイカルグループ各社がこれまで取り組んできた多様なエンターテインメント業態の集積となっている。特に注目されるのが「観光名所 小樽よしもと」「石原プロワールド 西部警察」の2つの屋内型テーマパークの存在である。
ヴィーナスフォート（東京・臨海副都心） http://www.venusfort.co.jp/ ”女性のためのテーマパーク”をコンセプトとしたエンターテインメント施設で、古代ローマをテーマとしたアメリカ・ラスベガスのショッピングモール「フォーラムショップス」をモデルとし、17～18世紀のイタリアや南フランスの街並みを再現している。外光が入らないエンクロードな空間で、我が国で初めて導入された「スカイフィーチャー・プログラム」により、天井に描かれたリアルな天空が1時間のローテーションで変化し、空間演出は躍動したものとなっている。「教会広場」においてはステージ、大型ディスプレイや音響・照明設備が整っており、様々なイベントに対応できる多目的空間となっている。20～30代の女性をターゲットに、新しいライフスタイルを提案できる店舗を導入している。
イクスピアリ（千葉県浦安市舞浜） http://www.ikspiari.com/ 「東京ディズニーリゾート」の一拠点であり、その名称は体験を意味する「イクスペリエンス」とベルシャ神話に登場する妖精「ピアリ」を組み合わせた造語で、「かつて海上貿易によって栄え、貿易商人によって持ち込まれた多様な文化が融合し、独特の文化が育っていった」というバックストーリーを持つ。ディズニーテーマパークとは異なる楽しさを提供する空間を開発するものとして、「ミュージアム」「オフの生活を豊かにするライフスタイル」「子供の成長」の3点を街づくりのポイントと定め、映画鑑賞やショッピング、外食等参加率の高いレジャー的要素を配する。

資料：各種資料より MRI 作成

図表 12-1 複合商業施設の事例（2）

モデルとなる活動例
横浜ワールドポーターズ http://www.city.yokohama.jp/me/keizai/enterp/k1.html 1994年3月、横浜港地域は「輸入の促進及び対内投資事業の円滑化に関する臨時措置法」に基づき、国から輸入促進地域（FAZ）の指定を受けた。日本有数の貿易港を有し、背後に首都圏という広大なマーケットを持つ横浜が、このFAZ指定を契機に輸入関連施設等を整備し輸入の促進を図ることは、貿易摩擦の解消や均衡ある国際経済の発展といった国家的課題の解決への貢献であると共に、横浜経済の活性化を進める上でも大きな意義が認められる。こうした状況を背景に、輸入促進のための中核施設として輸入品の卸や小売りなどを行う商流拠点である「横浜ワールドポーターズ」が99年8月に開業した。施設の管理・運営は第三セクターの株式会社横浜インポートマートが行っている。1階から4階まではフード、ファッション、スポーツ・アウトドア&ホビー、ホーム&リビングを扱う。5階は「横浜ブロードウェイ」とし、スクリーン数8、総座席数1600を整備している。また6階は「健康・快適生活ワールド ビジネススクエア」として、横浜輸入ビジネス促進センター等の公的支援施設やオフィスの他、障害者の方やシニア向けの輸入福祉関連機器や輸入住宅関連の様々なショップが集積し、国際ビジネスネットワークの拠点として機能するフロアとなっている。2001年3月には、ソウルのアジア最大のファッション市場でありトレンドスポットである「東大門市場」の2号店（渋谷店に次ぐ）がオープンした。中間卸売りを省いた激安価格と、店員との交渉で値段が決まる「値切り大歓迎システム」というアミューズメント的要素もあり、注目を集めている。

資料：各種資料より MRI 作成

図表 12-2 岐阜の複合商業施設の事例

岐阜における活動例
リバーサイドモール（真正町） http://www.riverside-mall.com/ 中部地区初のアウトレットモールが核となった複合商業施設で、2000年に開設。女性服を中心としたブランド品に加えスポーツ用品、下着、靴等34店舗の他、16スクリーンのシネマコンプレックスや温浴施設、レストラン等を併設する。週末には約5000台の大駐車場が満杯となり、県外から訪れる客も多い。初年度の売上目標125億円は大きく上回る勢い。
ワールドデザインシティ G I F U（岐阜市・愛称アクティブG） http://www.pref.gifu.jp/s11130/kokasita/index.htm 岐阜駅高架下に、県と森ビル都市企画が公設民営方式で、2000年7月に開設。国内外のアーティストやデザイナーが集まり、創作活動や販売、情報発信を行うTAKUMI工房や、県内外のアパレルメーカー約100社が、レップと呼ばれる専門担当者の企画、販売、アドバイスで、若者向けアパレル商品を卸売する国内最大規模のレップマートと呼ばれる施設やレストラン街、温浴施設等の施設がある。またレップマートでは2000年12月より一般小売にも踏み切ったが、2001年3月には「レップマート（仮称）」という統一ブランドを作り、大丸などの大手百貨店やマイカルなどの大型量販店と提携し、婦人服と子供服を販売するショッップを全国展開することを明らかにした。
カラフルタウン（柳津町） http://www.colorfultown.co.jp/ トヨタ自動車株式会社が開発主体となった、日本最大級のオートモール（常時トヨタ系車種100台展示）に、イトーヨーカ堂、映画館（シネマコンプレックス）、ナムコ・ワンダーパークなどが入った複合商業施設で、2000年開設。いわゆる車、遊び、物販の総合的なショッピングセンターであり、世界初のユニークな試みとして今後が期待される。初年度は500万人の集客と300億円の売上を目指す。

資料：各種資料より GPC 作成

(3) ミュージアムパーク / レジャーミュージアム

図表 13-1 にモデルとなる先進事例を、図表 13-2 に岐阜の事例をまとめた。

テーマリゾートと比較すれば小規模ながら地域に密着し、その地域の伝統文化や固有の産業技術、あるいは特定テーマの関連品を保存・展示するのがミュージアムパークであり、体験施設や飲食・ショッピング施設等を併設してレジャー機能も満たすものである。“ 学ぶ ” 需要と “ 遊ぶ ” 需要を同時に満たす施設といえる。

また最近注目されている「バックステージツアー」(舞台裏ツアー：舞台設備や衣装・小物を見学、表に出てこないストーリーや演出に関する説明等を聞くことができる) も、舞台裏をミュージアムとした、“ 学ぶ ” “ 触れる ” 要素を満たしながらの “ 遊ぶ ” 交流活動ととらえることができよう。

東西文化の接点であり独自の伝統文化を育んできた岐阜においては、潜在している資源は豊富にある。現存する伝統芸能に加え失われてしまったものに光をあてて歴史を再発掘し、新しい生命を吹き込むことは、岐阜の、ひいては日本の精神性を次代に継承するために極めて重要な意味を持つ。歴史文化の発掘の継続とその演出 (いかに見 (魅) せるか) が必要である。(1) テーマリゾートの項でも述べた通り、岐阜においては、その歴史的豊かさを見つめ直して提案できるようなミュージアムパークが期待される。

図表 13-1 ミュージアムパーク / レジャーミュージアムの事例 (1)

モデルとなる活動例
浜名湖オルゴールミュージアム（静岡県浜松市） http://www.entetsu.co.jp/kaihatu/palpal/orgel.htm 遠鉄観光開発(株)が「かんざんじロープウェイ」の大草山山頂展望台に併設させる形で1999年にオープン。一大観光エリアである館山寺温泉の中心に位置し、隣接してかんざんじロープウェイや浜名湖パルパル等の集客施設を擁するという立地要因も挙げられるが、重要なポイントは、浜松市がこれまで推進してきた「音楽」をテーマにしたまちづくりと連動したことである。大草山は県指定の自然公園内に位置し様々な規制がかけられているため、周辺環境を取り込み地域文化と結び付いた、「聴く、遊ぶ、学ぶ」ことのできるオルゴールミュージアムを建設するに至った。同ミュージアムが重視していることの一つに、「レベルの高い本格的なものの提供」がある。2階のコンサートホールにおいて1時間ごとに定期演奏を開催、解説員が様々なオルゴールや自動演奏オルガンを動かして音を聴かせるという魅力づけを行っており、購入日に限り再入場も可能と、来場者の便宜を図っている。同ミュージアムにおいてモリピーターの確保が最重要課題であり、オルゴールショップでのクリスマスフェアや特別コンサートを皮切りに、四季毎のイベントを通じて顧客の確保と友の会の組織づくりを行いながら展示品の拡充を図り、ノウハウの蓄積を進めている。
伊那谷道中（長野県飯田市） http://www.inadani.co.jp/ 江戸時代から昭和初期までの飯田下伊那地方の町並みを再現したミュージアムパークで、1997年にオープン。コクサイグループが手掛けたもので、開発・運営に際しては新たに信州テーマ(株)を設立している。大火で失われた飯田の町並みを再現し、南信地域18市町村の300年にわたる庶民の生活史をテーマにして、歴史・民俗・伝統工芸・伝統産業を収集、保存、展示するミュージアムと商業・アトラクションの複合施設である。「歴史見聞」「伝統体験」「史実鑑賞」「面白遊歩」「美味満腹」「古里直売」といったテーマごとに木造37棟から構成される。地域固有の伝統を今に伝える事業者を中心に出店を依頼し、テナントとして入居するシステムを採用。商圈としては長野県内20%、県外80%と県外客が多く、特に名古屋など中部・東海地区からの来場者が全体の7割を占めている。なお併設して温泉を利用した日帰り温浴施設「伊那谷温泉 満願成就の湯」も同時オープンし、パーク来場者が帰りがけに利用する等、相乗効果が現れている。地元の65歳以上の高齢者には割引サービスを施すなどの運営手法もあり、地域への浸透も図られている。
サンリオピューロランド（東京都多摩市） http://www.sanrio.co.jp/spl/spl.html 1990年12月に開設された全天候型屋内テーマパークで、7つのアトラクションと3つのレストランで構成されている。ハローキティをはじめ、おなじみのキャラクターや約400体もの精巧なロボットが夢とメルヘンを織りなすもの。ライブショーも充実しており、2000年3月10日より1年間の予定で10周年特別企画として本物のレビューショーを上演中。土日・祝日の18～20時にはダンススペース「club DANIEL」がオープンし、キャラクター達と一緒にパラパラ等を踊って楽しめる（中学生以上）。幼稚園・保育園向けには親子遠足や卒園遠足・謝恩会、小学校～専門学校生には修学旅行・校外研修のユニークな体験学習プログラムとしてバックステージツアーを、また専門学校や大学に向けては製作発表の場を提供している。また今までにない新しいパーソナルイベントとして、全国に多い苗字を選んで「○○さんの日」を毎月実施しており、当日はスペシャルイベントもある。インターネットによるオリジナルグッズの特別通販も充実している。

資料：各種資料より MRI 作成

図表 13-1 ミュージアムパーク / レジャーミュージアムの事例 (2)

モデルとなる活動例
横浜キャラクターミュージアム（神奈川県横浜市） http://www.y-c-m.com/Museum/ キャラクター玩具の専門博物館で、世界的に著名なおもちゃのコレクターである北原照久氏の膨大なコレクションのキャラクター玩具関連10万点の中から4万点を選びすぐり展示する。面積（850平米）、規模共に世界最大を誇る。世界有数といわれるディズニーコレクションをはじめ、昭和20年代に手塚治虫が描いた「バンビ」の原画も初公開された。「横浜キャラクターミュージアム」と同じく北原氏が館長を務める山手「プリキのおもちゃ博物館」、横浜マリンタワー「機械じかけのおもちゃ館」の横浜3館共通入場券もある。様々な企画展も充実している。

資料：各種資料より MRI 作成

図表 13-2 岐阜のミュージアムパーク / レジャーミュージアムの事例

岐阜における活動例
飛騨高山まつりの森（高山市） http://www.takayamaland.co.jp/ ㈱高山ランドが1998年にオープンしたもの。「飛騨高山まつりの森」は「まつりの森」、「自然の森」、そして文化をテーマにした「茶の湯の森」（第2期施設として1999年オープン）の3つのゾーンで構成される。高山は江戸初期に創始された茶道宗和流の開祖である金森宗和ゆかりの地でもあり、このため早くから茶の湯が広まり、多くの茶人や名工を生み出したという歴史を踏まえて計画されたもの。「茶の湯の森」は名陶の手による茶道具類など約1000点を所蔵・展示する茶の湯美術館を中心に、美術館の所蔵品で呈茶が受けられる数奇屋造りの茶室「瑞雲庵」、銅板拭きの屋根に総イチイ造りの茶室「銅閣庵」、待合を配している。同施設の中核は平成の祭屋台を展示している地中ドーム「高山祭りミュージアム」である。飛騨流紋岩という非常に硬い岩質で亀裂の少ない岩盤であったことが、大胆な展示空間を実現させた。入場動向をみると、高山祭りミュージアムの展示空間と展示品の希少性、話題性に加え、97年12月に長野県安曇野村と岐阜県上宝村を結ぶ安房トンネルの開通が広域からの集客に貢献した。来館者には中高年層が多く、やはり精神修養や礼など”道”をわきまえ、それを楽しむ心の豊かさや経験、知識が求められていることが伺える。近接地で岐阜県が整備している「飛騨・世界生活文化センター」との相乗効果が期待される。日本文化に興味を持って来日する外国人にアピールする可能性も期待できる。
日本大正村（明智町） http://www.nihon-taishomura.or.jp/ 明智町は大正時代の建物が数多く残る町で、これらを生かしながらかつくりだされたのが「日本大正村」。「大正」をテーマに、町全体を「日本大正村」という一つの開放されたパークに見立てたもので、そこには住民が生活している、まさに生きたパークである。
養老天命反転地（養老町） http://www.nhk-chubu-brains.co.jp/gifu/yoro/tenmei.html 養老公園に誕生した心のテーマパーク。だ円形にくり抜かれた巨大な窪地の庭園で、圧倒的なスケール感、水平のないアンバランス感に不思議な魅力がある。国際的芸術家・荒川修作氏の作品。

資料：各種資料より GPC 作成

(4) イベント

図表 14 に岐阜のイベントの事例をまとめた。

イベントの事例は数多いためここで全てを列挙することはできないが、岐阜県は積極的にイベント開催に取り組んでおり、交通・情報インフラの整備も手伝って、今後とも大きな成果を上げることが期待される。花フェスタや各種のコンクールは人々の耳目を集め、“岐阜”を発信する重要な機能を担っている。また「ウェルカム21ぎふ」においては、飛騨美濃合併 120 周年の 1996 年から 2000 年までの 5 年間を 21 世紀までの助走期間と位置づけ、県民総参加で「イベントシリーズ」を開催してきた。さらに県は愛知万博への協力として、“全県まるごとパビリオン構築”を打ち出している。「ウェルカム21ぎふ」の流れを受けて引き続きイベントを開催、現在は愛知万博との相乗効果を得られるような仕掛けが求められている。この万博開催に合わせ開催を予定している 5 圏域イベントの一つとして、「産業技術・伝統文化」パビリオンを構築する東濃圏域においては、陶磁器のテーマパークである「セラミックパークMINO」を活用したイベントがある。「セラミックパークMINO」は陶磁器をテーマにした産業・文化の複合施設であり、収集・展示を近現代に特化した世界初の県現代陶芸美術館である。ここで世界の名窯をテーマにした展示を 2005 年 3 月から 6 月に開催、「名窯のスタイル」と「世界の名窯の現在」の二部構成で、特に独マイセン、仏セーブル、英ウェッジウッドなど 20 ヶ所以上の名だたる産地の名品を収集、または貸し出しを受けて開催する「世界の名窯の現在」は、世界初の試みである。同時に「国際陶磁器フェスティバル美濃」も開催する。県では万博協力として、会場周辺での魅力あるイベント開催を計画しており、淡水水族館、平成記念緑のふれ愛広場、花フェスタ記念公園のバラ園の充実など施設整備を進め、東海環状自動車道、東海北陸自動車道沿いを中心に、万博支援と県内交流人口の拡大を図っていく。

その他岐阜圏域では「ファッション・デザイン文化」、西濃圏域では「情報文化」、中濃圏域では「環境・公園文化」、飛騨圏域では「民俗文化・健康」と、それぞれの風土に即したパビリオンを構築する。

こうした陶磁器関連のイベントを全国規模のイベントと比較してみると、例えばたじみ茶碗まつりは、この地方ではそれな

りの集客力があるものの、例えば有田陶器市（佐賀県西松浦郡有田町）と比較すると訴求力が弱い。

有田陶器市は有田駅から上有田駅までの約4キロにわたって600軒以上の陶器の店が並ぶ全国最大の陶器市であり、ゴールデンウィークに開催され、全国から約100万人もの人々が訪れる。さらに有田焼卸団地や有田焼直売会館、作家村ではいつでもショッピングを楽しむことができる。有田町内山地区の街並みは陶磁器生産の拡大に伴い江戸初期に形成され、「有田千軒」と呼ばれるほど栄えた。1991年に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、町も景観条例を定め、147軒を「伝統的建造物群」に、トンバイ堀等の128軒を「環境物件」に指定している。他にも明治期の洋館「異人館」、大公孫樹、赤絵町や大樽の町家、国の重要無形文化財に指定されている柿右衛門窯や今右衛門窯など歴史的に価値の高い建物が数多く残っている。このように歴史散歩を楽しむことができる街並みと良質な宿泊施設、労働人口の7割が焼き物関連業に従事しているという小さな町の熱い思いが、陶器市を成功に導いている。1979年にはマイセン市と姉妹都市の提携を結び、相互交流も活発に行われている。イベントそのものの質の良さに加え、やはり周辺環境（開催時期、町並みや風土・人情、関連イベント、飲食・宿泊施設等）の整備が、観光客にゆったりとした上質の時間（過ごし方）の提供には不可欠である。岐阜は歴史的にモノを創って外に出すのが基本であり、地元で売る力が弱いといえよう。今後とも人を引き寄せる総合的な仕掛けづくりが重要である。

科学的に見ても旅行は、「単調な日常生活からの解放」「心身のリフレッシュ」に留まらないことが指摘されている。健康増進のためには「自然の豊かなところへ行き、数日間は滞在すること」が好ましい（日本健康開発財団元常務理事 岩崎輝雄）とのアドバイスもある。自分の好みの行為や楽しいことをすれば気分がすっきりすると同時に、ナチュラルキラー細胞の働きが強まり免疫機能がアップする（東京理科大学諏訪短期大学 篠原菊紀講師）。また自然環境の良いところにはマイナスイオンが多く、血圧を下げ、鎮静作用のある副交感神経系の働きを高める作用があると考えられる（北海道大学 阿岸祐幸名誉教授）という。岐阜においては良質なイベントと歴史的建造物、温泉等の自然資源の相乗効果を発揮すべきである。

図表 14 岐阜のイベントの事例 (1)

イベント http://www.wec-gifu.org/
ぎふ中部未来博覧会 (1988年) 「人がいる、人が語る、人がつくる」をテーマに、県民の総力を結集し開催されたイベントで、独創的な企画により当初予定の約1.6倍の407万人の入場者 (73日間) を集め、博覧会ブームの中で黒字ナンバーワンを記録した。
花フェスタ'95ぎふ (1995年) 「未来へ - 夢・花・人」をテーマに開催されたイベントで、花の都ぎふ運動を展開する岐阜県の総力を結集した花の博覧会。跡地は花フェスタ記念公園として96年オープン。
ウェルカム21ぎふイベントシリーズ http://www.pref.gifu.jp/s11128/welcome/top-contents/GF121002.htm http://www.pref.gifu.jp/s11128/welcome/top-contents/GF121003.htm 飛騨美濃合併120周年の1996年から2000年までの5年間で21世紀へ向けた助走期間と位置づけ、県内各地で多彩なイベントが開催された。特に2000年は、岐阜県下全域をイベント会場に見立て、そこに「決戦関ヶ原大垣博」、「子ども未来博2000」、「ハロー・ジャパン・ハロー21・インぎふ」をはじめとする1500を超えるイベントを、20世紀最後の年を記念して展開した。このイベントにあわせて岐阜県全域で、岐阜県の自然、文化、歴史などの豊富な観光資源を活かしつつ、新しい観光の魅力を創り出す、全県まるごと観光キャンペーンとなる「飛騨美濃体験博」を展開した。
飛騨美濃体験博21 2000年に展開した「ウェルカム21ぎふ・飛騨美濃体験博」の成果を生かし、新たな体験コースの設定など魅力づくりを進め、交流人口の増大、さらには交流産業の振興、個性豊かな地域づくり、県の知名度向上などを一層推進することを目的としている。県内各地のイベント施設、観光地などを会場に、県や各地域がイベントなどを順次計画し、恵まれた自然、文化、産品などもアピールする。県では推進本部を設置すると共に、県観光連盟、市町村観光協会、ボランティア団体などと協働体制を築き、誘客のためのPR活動を行っていく。
岐阜県民文化祭 岐阜県では県民の方に優れた芸術や文化に触れてもらおうと共に、日頃続けている文化活動の発表の場として、1995年から毎年秋に県民文化祭を県内各地で開催しており、岐阜県らしい文化の創造を目指している。この活動の延長として、1999年には「国民文化祭」を開催した。
地域伝統芸能全国フェスティバル岐阜 同フェスティバルは、年に1回開かれる全国最大の伝統芸能の祭典で、岐阜県では1998年5月に高山市と下呂町の2会場で開かれた。県内からは、春と秋の高山祭りの屋台からくりが揃う「特別屋台からくり祭」や県内の地歌舞伎が集合する「飛騨・美濃地歌舞伎大会」をはじめ、同フェスティバル初の野外ステージとなる「長良川鶺鴒」の実演など、飛騨、美濃の各種伝統芸能が勢揃いした。県外からは17県が参加し、県内外合わせて、過去最高の134団体が参加した。

資料：各種資料より GPC 作成

図表 14 岐阜のイベントの事例（2）

愛知万博（2005年）にあわせた県内5圏域イベント
岐阜県の万博協力素案では、産業・伝統文化など5圏域の特色を活かした全県まるごとパビリオンを構築し、イベントの展開等を図としている。 岐阜圏域では「ファッション・デザイン文化」、西濃圏域では「情報文化」、中濃圏域では「環境・公園文化」、東濃圏域では「産業技術・伝統文化」、飛騨圏域では「民俗文化・健康」をテーマにしたパビリオンと位置付けている。この内東濃圏域では、2002年開館予定のセラミックパークMINOで、「世界の名窯」をテーマにした国際的イベントを開催すると同時に、「国際陶磁器フェスティバル美濃」も開催することとなった。
国際陶磁器フェスティバル美濃 http://www.synnet.or.jp/festival.mino/j/frame.htm
世界中から作品が集まる国際的な陶磁器のコンペティションで、3年ごとに岐阜県で開催されており、前回（第5回）では10万人余名が来場。但し次回（第6回）開催は、場所をセラミックパークMINOの完成に合わせて行うため、2002年に開催。陶磁器デザインと陶芸の2部門があり、それぞれ国際舞台へ飛躍する大きなチャンスと位置付けられている。

資料：各種資料より GPC 作成

(5) 祭り等を含む伝統文化

図表 15 に岐阜の伝統文化の事例をまとめた。

高山祭りこそ日本三大祭りの一つに数えられるものの、それ以外の“祭り”等の伝統文化資源は、一層の活性化、P R 等が必要だと考えられる。中部地方には固有の地域色を色濃く残す伝統文化が多く、これを地域資源として活性化し、まちづくりや情報発信に寄与する方向に進めることが重要であろう。隣接地域との連携も一つの方策である。からくり人形や地歌舞伎、郡上おどり等価値ある“祭り”資源を、世界に向けて発信していきたい。特に現在失われてしまった人形浄瑠璃等を復活させる取り組みは、岐阜全体として祭り等伝統文化の継承・発信に、よりよい相乗効果をもたらすと考えられる。

図表 15 岐阜の伝統文化の事例（1）

祭り
高山祭（高山市） 高山祭とは春（4月）の山王祭と秋（10月）の八幡祭の総称であり、国重要無形民俗文化財に指定されている。いずれの祭りも「飛騨の匠」の技を活かした彫刻や幕等が華麗な屋台の練行列は、昔から国内有数の山車祭りとして知られており、日本三大美祭の一つに挙げられる。また、カラクリ人形の妙技は江戸時代以来の優れた伝統芸能であり、見る人に感動を与えている。この祭屋台は国重要有形民俗文化財に指定されている。
郡上おどり（八幡町） 奥美濃の夏の風物詩として全国に知られる日本三大民謡踊りの一つで、バラエティーに富んだ構成で、老若男女が一団となって踊ることができる参加型の踊りである。7月中旬から9月上旬にかけての30日間開催され、特に8月13～16日にかけての盂蘭盆会の徹夜踊りは有名で、徹夜日数日本一の踊りとなっており、国重要無形民俗文化財に指定されている。
古川祭（古川町） 400年以上続く伝統神事の古川祭では、カラクリ人形による劇を演ずる優雅な屋台の曳き揃えも行われるが、夜から未明にかけて行われるダイナミックな「起し太鼓」が特に有名である。これは日本三大裸祭の一つといわれ、500人以上にも及ぶさらしを巻いた裸男たちが激しくぶつかり合う様子は勇壮そのものである。国重要無形民俗文化財に指定されている。
どぶろく祭り（白川村） 10月のどぶろく祭りではしか味わえない、ほんのり甘い白濁のどぶろくを味わう祭りで、神社で造るどぶろくとしては醸造量日本一である。
花みこし（美濃市） 花みこしは、ピンク色に染めた美濃和紙を巻き付けた細長い竹約200本をみこしの屋根に付けた、日本一美しいみこしと言われている。
谷汲踊り（谷汲村） 源平合戦の戦勝祝いの踊りと伝えられる谷汲踊りは、背中に長さ4メートルの竹製で鳳凰の羽をかたどった「しない」と呼ばれるものを、胸には70センチの太太鼓を抱えた12人1組が勇壮に踊る祭りで、鉦鼓、洞貝、横笛などが楽器として加わり、華やかに繰り広げられる。
今尾の左義長（平田町） 左義長とは正月行事の一つで悪魔払いの火祭り。周囲7メートル、重さ2トンの竹みこしが若者に担がれ点火され、青竹のはじける音と群衆の歓声が交錯する中で、祭りは最高潮を迎える。これほどのスケールは日本一と思われる。
連獅子（荘川村） 県内にはたくさんの獅子舞が残っているが、30頭にも及ぶ獅子が神楽に合わせて一斉に舞う姿は、全国でもここだけである。

資料：GPC 作成

図表 15 岐阜の伝統文化の事例（2）

地歌舞伎（農村歌舞伎） 岐阜県には江戸末期から明治中期に建てられた、客席と舞台が一体となった劇場型舞台が7ヶ所、舞台の部分に屋根が付いた拝殿型舞台が30ヶ所も残っており、その数・質ともに日本一となっている。特に飛騨地域や東濃地域に数多く残っている。優れた保存状態で、下記の例に見られるように村国座、明治座、白雲座など、いくつかの舞台が今なお使われており、県内各地で27もの地歌舞伎の保存会が脈々と活動を続け、地歌舞伎の数も日本一となっている。
村国座（各務原市） 舞台は幕末に企画されたもので、国重要有形民俗文化財となっており、毎年10月に子供歌舞伎が上演される。
明治座（加子母村） 東濃地域には数多くの舞台小屋があるが、この内の代表的なもので、県重要有形民俗文化財となっている。毎年9月中旬に奉芸される。
白雲座（下呂町） 農村歌舞伎の隆盛で、本格的芝居小屋として村民の熱意でできたものであり、国重要有形民俗文化財に指定されている。毎年11月に農村歌舞伎が演じられる。
文楽
真桑人形浄瑠璃（真正町） 元禄年間に始まったといわれ、300年の伝統ある文楽で、国重要無形民俗文化財に指定されている。
鵜飼
長良川の鵜飼（岐阜市） 鵜飼とは海鵜を飼い慣らして魚（アユ）をとる漁法で、日本書紀、古事記にもその記述が見られるように約1300年の伝統を持つ。風折烏帽子に腰蓑姿と表された装束をまとった鵜匠がアユを狩る様は、見る人を夢幻の境地へと誘う。

資料：GPC 作成